

自己評価結果公表シート（年少）

札幌白ゆり幼稚園

1. 園の教育目標

- ・人間が人間として生きていくための力（自立）を育てる。
- ・幼児にふさわしい集団生活という環境を与えることによって、『自立・自主』の心を育て、人間としてふさわしい人格形成の基礎を育てる。
- ・『心の力』『体の力』『学ぶ力』を育てる。
- ・『あたりまえ10箇条』を柱とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って評価をし、各教師が自園を客観的に見ることによって、改善し更なる向上を目指す目標とする。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
集団生活における基本的な生活習慣を身につける	出来ないことは一度自分でやってみて、それでも出来ない場合に手を差し伸べる。“自分の事は自分です”という共通の考えを職員間で持つ。
教師の指示に従って行動出来るようにする	日頃から椅子の座り方や話の聞き方をしっかりと意識させる事によって、教師の指示を1回で聞く習慣をつけた。
園外保育での活動をスムーズに出来るようにする	外での危険を周知させ、園外でのお約束を日頃から共有し理解を深めた。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（1学期）	朝の会などを通して椅子の活動に慣れさせる。また、ぬりえや線引きの活動を用いて楽しみながら筆圧を鍛えた。
保護者へ子ども達の成長をアピールする（行事を通して）	月に1度ドキュメンテーションを送るだけでなく、達成した事柄について写真や動画を送って共有した。
「ルール」に対する意識改革（ゲーム等遊びを通して）	ルールのある遊びの中で、お約束を守って遊ぶ事の大切さを伝えた。
クラス全体のレベルアップ	小さな目標を与え、たくさんの成功体験から自信に繋げ、更なるレベルアップを図った。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（2学期）	日々の活動を運動会や発表会で発表する事により、自信をつけさせる。また、絵の具や楽器など普段味わうことの出来ない経験を多く取り入れて活動の幅を広げた。

クラス全員が出来ることを増やす	クラスの中での個人の差がつかないように、フリーの先生で底上げをしてクラス全員が出来るよう促した。
年中に進級する為の基礎作り	子どもがどうするべきかわからない場合、教師はすぐ答えを教示するのではなく一度自分で考えさせる機会を設け、それに慣れさせる。
毎日継続することの大切さを実体験させる	逆立ちや平片名の活動から目標を定めて達成を経験させる。また、小さな成長を見逃さずにたくさん褒めて向上心を培う。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける (3学期)	ドリルと本読みを毎日続けて習慣化し、継続力と集中力を身につけた。また、次年度に向けて音に触れる機会を増やした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	指導計画案を元に月毎に具体的な目標を定め、それに沿った保育を展開した。よって、ほとんどの子どもが目標を達成し、“我慢”を身につけた在るべき姿で年中を迎える事が出来た。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
集中力の向上	塗り絵などの座って行う活動を増やし、集中して取り組む時間を更に設ける。“目をつぶって待つ”などといった静的な環境に慣れさせる。
文字を読む力の向上	文字に親しみを持てるように遊びの中にも取り組む。1日に1度覚えるための活動を行うだけでなく、帰る間際に再度手に書かれた文字を確認する。
座り方の徹底	今一度、椅子の座り方を確認し、正しい姿勢で活動に取り組めるようにする。

自己評価結果公表シート（年中）

札幌白ゆり幼稚園

1. 園の教育目標

- ・人間が人間として生きていくための力（自立）を育てる。
- ・幼児にふさわしい集団生活という環境を与えることによって、『自立・自主』の心を育て、人間としてふさわしい人格形成の基礎を育てる。
- ・『心の力』『体の力』『学ぶ力』を育てる。
- ・『あたりまえ10箇条』を柱とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って評価をし、各教師が自園を客観的に見ることによって、改善し更なる向上を目指す目標とする。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
集団生活における基本的な生活習慣を身につける	毎日の生活の中で身につくように、継続して取り組んだ。
自分で考え行動出来る環境設定を心掛ける	子どもたち自身が自発的に行動できるように、促した。
クラスのレベル、個人のレベルを把握しそれに応じた保育展開	個々の目標を明確にし、その目標に沿って達成できるように努めた。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（1学期）	制限のある中で、例年にはないイベントを計画し、楽しめるよう工夫した。
保護者へ子ども達の成長をアピールする（行事を通して）	動画やドキュメンテーションを通して、練習の様子を伝えるよう努めた。
心の揺れ動きを実体験させる	達成した喜びや、失敗してもお友達を応援する気持ち等、様々な感情を分かち合った。
クラス全体のレベルアップ	学年全体で1つの目標を定め、切磋琢磨し合いながらレベルアップにつなげた。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（2学期）	大きな目標に向かって、協力する大切さを学び、発言する機会を作って、気持ちを伝える楽しさを知った。

個人のレベルアップに重点を置いたカリキュラム作り	クラスの枠を越えて情報を共有し、日々継続できるような環境を作った。
年長に進級する為の基礎作り	基本的な生活習慣を徹底し、自己発言が出来るよう働きかけた。
毎日継続することの大切さを実体験させる	逆立ち等の課題活動を通して達成した時に保育者やお友達と喜びを分かち合った。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける(3学期)	1年を通して積み重ねてきたことで自信が深まり、期待感を持って進級できるよう過ごした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	制限のある中でも、様々な企画を計画し、幼稚園生活を楽しめるようにした。 学年で1つの目標に向かって努力を積み重ねていく中で、お友達を応援する気持ちが芽生え、成長を感じられた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
リーダーとしての自覚と自信を持つ	新しい課題や目標に対しても、最後まで諦めずに頑張り続けられるようにする。

自己評価結果公表シート（年長）

札幌白ゆり幼稚園

1. 園の教育目標

- ・人間が人間として生きていくための力（自立）を育てる。
- ・幼児にふさわしい集団生活という環境を与えることによって、『自立・自主』の心を育て、人間としてふさわしい人格形成の基礎を育てる。
- ・『心の力』『体の力』『学ぶ力』を育てる。
- ・『あたりまえ10箇条』を柱とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って評価をし、各教師が自園を客観的に見ることによって、改善し更なる向上を目指す目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
集団生活における基本的な生活習慣を身につける	当たり前に行っていたことを見直しながら生活した。
年長児（リーダー）として自覚を持たせる	様々な行事の中で、前向きに意識を高められる環境を作った。
様々な体験から物事に対する自信を持ち課題に対する意欲を育てる環境設定	小さな成功体験を積み重ね、次への目標に向けて、意欲を高められるようにした。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（1学期）	コロナ禍ではめったに、保育内容を工夫し、心と体の育ちを高めた。
保護者へ子ども達の成長をアピールする（行事を通して）	仲間と切磋琢磨し、最後まで諦めない姿を見てもらった。
出来ることをどんどんさせお手伝いの場を与える	子どもが自主的に気が付き、能動的にお手伝いできる環境を整えた。
自ら意欲的に環境設定出来るような関わり	日々、子ども達に言葉掛けすることで、見通しをもち行動ができるようにした。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける（2学期）	1学期の経験を生かし、様々な行事で力を発揮した。

就学に向けての意識向上を心掛ける	小学校週間を通して、么カ木佳園との違いを体感し、期待感を高めた。
幼稚園生活の思い出作りの場作り	制限が厳しく中でも工夫を凝らし、クラスや学年の垣根を越えた行事を行った。
毎日継続することの大切さを実体験させる	自ら目標を定め、努力を惜まず、達成した際には、お友達や保護者と喜びを分かち合った。
年間保育計画に沿った保育を心掛ける (3学期)	3学期で培ったことを生かし、就学先でも自信対等、過ごせるように力をかけた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	昨年に引き継ぎ、制限の多い生活でも、1人ひとりが目標に向き合い、仲間と協力することで、多くの達成感を味わうことができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
么カ木佳園で経験したことと就学先でも継続してほしい。	么カ木佳園での経験を、新しい環境でも気を取り直さず、日々意識して、楽しく過ごしてほしい。